

アルジェリアへの渡航を予定される皆様へ

発出日：2025年03月28日（継続/一部地域引き下げ）

リビア、ニジェール、マリ及びモーリタニアとの国境地帯並びにイリジ県イナメナス地区	〔レベル4〕 「 退避してください 。渡航は止めてください。（退避勧告）」（継続） その国・地域に滞在している方は滞在地から、安全な国・地域へ退避してください。この状況では、当然のことながら、どのような目的であれ新たな渡航は止めてください。
ティジ・ウズ県（山間部）、ベジャイア県西部（ベジャイア地区を除く同地区から西の地域）、ヘンシュラ県、デベッサ県、エル・ウェッド県（チュニジアとの国境地帯）、ウアルグラ県（チュニジアとの国境地帯）、イリジ県（リビアとの国境地帯及びイナメナス地区を除く）、ジャーネット県（リビア及びニジェールとの国境地帯を除く）、タマンラセット県（ニジェールとの国境地帯を除く）、イン・ゲザム県（ニジェール及びマリとの国境地帯を除く）、ボルジ・バジ・モクタール県（マリとの国境地帯を除く）、アドラール県南部（ザウイエット・クンタ地区及びタメクテン地区以南の地域（マリ及びモーリタニアとの国境地帯を除く））及びイン・デフラ県（アルジェリア東西高速道路及び国鉄アルジェ・オラン線での通過を除く）	〔レベル3〕 「渡航はやめてください。（渡航中止勧告）」（継続） その国・地域への渡航は、どのような目的であれやめてください。 （場合によっては、現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。）
ブーメルデス県、ブイラ県、ベジャイア県東部（ベジャイア地区以東の地域）、バトナ県、ティンドウフ県（モーリタニアとの国境地帯を除く）及びメデア県	〔レベル2〕 「不要不急の渡航はやめてください。」（継続） その国・地域への不要不急の渡航は止めてください。 渡航する場合には特別な注意を払うとともに、十分な安全対策をとってください。
ティジ・ウズ県（山間部を除く地域（県都ティジ・ウズ市を含む））、アイン・デフラ県（アルジェリア東西高速道路及び国鉄アルジェ・オラン線での通過）及びイン・サラ県	〔レベル2〕 「不要不急の渡航はやめてください。」（引き下げ）
上記以外の地域	〔レベル1〕 「十分注意してください。」（継続） その国・地域への渡航、滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。

【ポイント】

- 危険レベル4の退避勧告を発出している地域では、引き続き、イスラム過激派組織や武器・麻薬密売業者が活動しており、治安当局による掃討作戦が断続的に行われています。隣接する各国情勢の影響により治安が急速に悪化する恐れもあることから、どのような目的であれ渡航は止めてください。既に滞在中の方は、直ちに安全な地域に**退避してください**。
- アルジェリア政府は、2013年1月にイリジ県イナメナス地区において発生したアルジェリア人質事件（日本人10人死亡）以来、石油・天然ガス精製プラントへの国軍による警備を強化し、国境地帯におけるテロ掃討作戦を継続的に行うとともに、テロリスト支援者の検挙を推進してきました。これにより、これまで危険レベル3を発出していた地域の一部において治安改善が見られることから、当該地域の危険レベルを引き下げます。ただし、今後もテロ事件が発生する可能性は排除できず、治安情勢が急激に悪化するおそれもあることから、レベル3地域においては、どのような目的であれ、渡航は止めてください。また、レベル2を発出している地域へは、不要不急の渡航は止めてください。

【概況】

- (1) アルジェリアでは、1990年代半ばにイスラム原理主義運動が高まり、都市部だけでも2万3千人を超えるイスラム過激派のテロリストが活動していたと推計されています。これに対しアルジェリア政府は、テロ掃討作戦と、投降テロリストへの恩赦及び社会復帰政策を並行して推進し、それらが奏功したため、テロリストは漸次的に減少していきました。他方、都市部で活動できなくなったテロリストが、政府による管理の行き届かない広大な国境地帯へと退避、潜伏し活動するようになりました（アルジェリアはアフリカ大陸最大の国土を有し、その国境線の総延長は約6千キロメートルにも及びます）。
- (2) そのような情勢下、2013年1月、リビア国境に接する東部のイリジ県イナメナス地区において、天然ガス精製プラントがテロリストグループの襲撃を受け、日本人を含む40人の犠牲者が出ました（アルジェリア人質事件）。同事件以来、アルジェリア政府は石油・天然ガス精製プラントへの国軍による警備を強化し、国境地帯におけるテロ掃討作戦を継続的に行うとともに、テロリスト支援者の検挙を推進してきました。その成果は近年、テロ事件発生件数の減少として現れてきています。近年では、年間の国土全体でのテロ事件発生件数が一桁台で推移しています。
- (3) テロリストやその支援者の逮捕数等は、テロの潜在的なリスクを推し量る指標となります。2023年には、国軍のテロ掃討作戦により、テロリスト8人及びテロリスト支援者417人が逮捕されています。2023年1月には、シリアからの帰還戦闘員であったアルジェリア人が逮捕され、同人がアルジェリア国内で新しいテロ組織の設立を画策し、南部の石油施設への攻撃、首都における著名人の暗殺等について謀議していたことが明らかになっています。
- (4) アルジェリアの隣国へ目を向けると、南部と国境を接するマリにおいて、政情の不安定化と武装勢力による戦闘の常態化が顕著に進んでいます。現在、マリやブルキナファソなどで活動する過激派組織「イスラムとムスリムの支援団」（JNIM）は、アルジェリアで結成された過激派組織「イスラム・マグレブ諸国のアル・カーイダ」（AQIM）を母体としています。また、マリやニジェールなどで活動する「イスラム国サヘル州」（ISSP）もAQIMの分派を源流としています。これらのテロ組織の動向が、アルジェリア国内の治安に影響を与える可能性も排除されません。
- (5) アルジェリアの治安情勢は近年安定して推移していますが、内的要因からも外的要因からも予断を許しません。アルジェリアに渡航・滞在されている方や、渡航・滞在を予定されている方は、海外安全ホームページや報道等により最新の治安情報の入手に努め、情勢に応じた適切かつ十分な安全対策を講じるよう心がけてください。そして情勢に危険を認めた場合には渡航を中止し、または、旅行中や居住中であっても安全な地域に**退避してください**。

※外務省海外安全情報（危険情報）の詳細につきましては、

外務省海外安全ホームページ： <http://www.anzen.mofa.go.jp>

<http://m.anzen.mofa.go.jp/mbtop.asp>（携帯版）にてご確認ください

または、

外務省領事サービスセンター 電話：（外務省代表）03-3580-3311（内線）2902, 2903

外務省領事局海外邦人安全課（テロ・誘拐関連を除く） 電話：（代表）03-3580-3311（内線）2306

外務省領事局邦人テロ対策室（テロ・誘拐関連） 電話：（代表）03-3580-3311（内線）3047

までお問い合わせください。

弊社では海外安全情報が発出された場合、原則として〔レベル1〕「十分注意して下さい」までの地域、国についてツアーを実施しており、ツアー実施にあたりましては、現地情報を十分把握し、安全で円滑な日程となる様配慮して運行管理を行っております。